

平成23年11月6日

No.89

〈地元志向・学び続ける〉

日経新聞「静岡まらり人財」ホテルはまず地元の人たちのもの。地元の人が利用してこそ、観光客も引き付けられる。大規模改装により地元客の利用増に成功した。1階のレストランも高級フランス料理店から、イタリア料理店に転換、メニューも格エジも使ったパスタや興津産の豚肉、地場の野菜など地元食材を使い、静岡イタリアンを掲げた。特徴がなかつた宴会場を、江戸時代から描かれてきた清水から見る富士山のりおせんも、京都大学の学生と協力し、壁に再現し、地元ならではの雰囲気づくりを目指した。地元利用者がゼロだったレストランは女性中心に、地元客が9割を占め、宴会場は地元客の宴会・婚礼の増加で売り上げが2倍、レストランで食事もし、宴会場の存在も知った人も多い、地元の施設として認識され、人生の節目の冠婚葬祭に利用されるようになった。「楽天トラベルアワード受賞、9割がビジネス客だったのが、3割を観光客、外国人も徐々に増え、社員教育の一環として英語朝礼、「どうやって周田を巻き込んで清水を観光の街に変えていけるか」次の課題。二、当地産と地元の利益の両立を目標に、地元企業と組んで、地元産の良友克、民産と連携を検討、毎週上京して早稲田大学ビジネススクールに通う、他の経営者との議論が大変役に立つ。

この記事を読んで、自社(私達)の使命は何か、使命を完遂するための行動をする、変える、変わる、そして学び続ける、刺激を受ける、成長していく。その実践例だと感じ、私達がやるか、やらなにかだと思っ  
た。変えていくのは、簡単ではありません。お金の問題、人の問題など、多くの課題があり、困難もあります。変化していかなければ衰退しかありません。が長、発展、繁栄の絶対条件は、変化していくことだと思ったり、やることだと思ったり。資金調達、人材採用等のリスク、困難はあります。逆にリスクもなく、簡単にできてしまえば誰かでもできるので、勝ち残りませんし、No.1、オーナーになりません。お客様に買ってもらえません。変化しながら学び続けています。

高林 幸裕